

(9) 進路指導	⑭ キャリア教育の充実	・学年の発達段階に応じ、自分のよさや夢を語ったり書いたりする場を設定し、自分のよさを発見し、将来に夢や希望をもって生きようとする意欲や態度を養う。(キャリアパスポートの実施)	3.5	3.4	<p>※「キャリア教育の視点」を平日頃からもっていることが重要だと思う。学期の最後にキャリアパスポートへの記入を行うだけでなく、日頃行っている実践の中に、キャリア教育の視点が含まれていないかを自分自身や子どもたちに問うことが重要だと考える。</p> <p>※キャリアパスポートもそうだが、機会があるごとに、子どもが筆を揮うような話や出会いの場作りをしていきたい。</p> <p>※地域の方やスポーツ関係の方等たくさんの方からゲストティーチャーにきていただいて、子どもたちの視野を広げることができた。</p> <p>※キャリアパスポートをうまく活用できていない。(学期に2回しか使えていない) 活用の仕方も分かっていないため、教えていただきたい。</p> <p>※キャリアパスポートに関わらず、日々のハウスクラスでは、児童が働くということについて考える機会になっていた。</p> <p>※キャリア教育を意識したゲストティーチャーを、年間を通じて1回呼ぶ。</p> <p>※野球、バス、フットボールとたくさんの方から直接話が聞けたのでよかった。</p> <p>※毎年のことではあるが、フリーの時間には子どもたちから聞けるところまで聞いてほしい。</p>
(10) 特別支援教育	⑮ 特別支援教育の充実	・全児童の「チェックリスト」を実施し、適切な指導・支援を検討し実施する。 ・必要に応じて支援体制づくりを行う。 ・学期1回以上の特支援委員会を実施する。	3.8	3.9	<p>※必要を感じた時に、保護者と面談をもつことで、具体的な支援や動きに結びつく。</p> <p>※全校で、組織として引き続きやっていく必要がある。誰を窓口にするのか、報告等含めて情報共有は不可欠。</p> <p>※今年度、支援が必要であると思われる児童が数名浮上してきた。入学時から情報がしっかりと引き継がれていない件もあった。特別支援を学校の中心に据えていくという意識を高め、年度代わりの引継ぎにもれないよう徹底する必要がある。</p> <p>※特別支援教育の充実には非常に大切な視点であるものの、会議や書類作成の負担が大きい先生もいらっしゃいます。会議の回数をもっと短くできないか、書類作成の手間をもっと減らせないか、働き方改革の面からも検討していただけたらとありがたいです。しんどさを感じる職員は多いと思います。また、特別支援関係の書類の作成を締め切りまであと数日しかない中で初めて指示を受け、ばたばたと作成して大変だったという話も時々あります。自分自身もありました。もう少し早めに指示が出るよう、市にも伝えていただけたらありがたいです。</p> <p>※個別の支援計画を作成した。保護者の方とも連絡帳や電話で連絡をとり、連携を図った。また、支援員と本児との関係も良好で、落ち着いた学校生活が送れていると感じる。</p>
	⑯ 個別の教育支援計画の作成と活用	・個別の教育支援計画を活用する。 ・各学期および年度末に、支援計画・指導計画について保護者と懇談し、適切な支援・指導に当たるようにする。	3.9	4.0	<p>※廊下は歩く。見かけるときに声をかけている。</p> <p>※トイレへ行くときに廊下を慎重と歩いていくことや、休み時間校内でおにごっこをしているのが目立つ。なぜ、走ってはいけないのかその都度考えさせて、子どもたちが危険を実感して考える機会が必要だと思う。</p> <p>※下校や廊下歩行の仕方について、児童に返す場面をつくる。</p> <p>※5年生では毎朝健康観察の時に、布団に入った時刻、朝ごはんを食べたかを調べ、早寝、朝ごはんの大切さについて声掛けをしていただいています。2学期になり早寝、朝ごはんを意識し生活できている子が増えてきました。毎日の声かけや見守りの重要性を学びました。</p> <p>※22:00までに布団に入るを1学期からくり返しチェックしていくことで、2学期はほとんどの子どもが布団に入るようになってきた。大人が伝え続けていく必要を感じた。</p>
(11) 保健安全教育	⑰ 安全教育の充実と安全管理体制の整備	・月1回防犯ブザーの点検を実施する。 ・児童のけが防止、危険回避のため、ヒヤリ・ハッとした体験を交流し危機意識を高める。児童にも示し、危険回避意識を高まる。	3.9	3.9	<p>※防犯ブザーの点検は実施しているが、点検の仕方について、児童に返す場面をつくる。</p> <p>※今年度、防犯ブザーの点検は実施しているが、点検の仕方について、児童に返す場面をつくる。</p> <p>※今年度、防犯ブザーの点検は実施しているが、点検の仕方について、児童に返す場面をつくる。</p>
	⑱ 基本的な生活習慣の確立	・「早寝、早起き、朝ごはん」を推進し、できる児童の割合を90%以上にする。	4.0	4.2	<p>※22:00までに布団に入るを1学期からくり返しチェックしていくことで、2学期はほとんどの子どもが布団に入るようになってきた。大人が伝え続けていく必要を感じた。</p>
(12) 研究・研修	⑳ 教職員の資質・指導力の向上	・児童が主体的・対話的で深く学ぶ授業づくりに取り組む。(確かな学力・主体的に学ぶ力の育成) ・常に学び続ける教師をめざす。(授業改善に向けた校内研究6回実施) ・研究授業で学んだことを普段の授業に生かす。(日ごろの授業改善)	4.1	4.1	<p>※教務部の先生方の日常の授業を公開していただき、勉強させていただけることとありがたいです。(自分が教務部にいた時には、公開させていただきませんでした。) 小規模校で若い先生も増えてきている中、より多くの先生方の授業に学ばせていただくことは大切だと思います。指導案がなくてもいいので、出入りの日常の授業を見せていただき、授業の進め方や子どもとのやりとり、発問などを学ばせていただけたらと思います。</p> <p>※教室の児童の少なさを生かして、どの子もわかる喜びを味わわせたい。個別指導により一層励み、国語や算数の授業改善にも励みたい。</p> <p>※少人数ならではの良さを生かして、みんなが分かる！できた！たのしい！とされるよう教師の力量を高めていきたい。</p> <p>※定期的に日頃の取り組みの交流や振り返りの機会をつくることで、真の向上につながる。</p> <p>※必要のある研修を選んで、積み上げていく。</p> <p>※大橋先生から年間を通して学べたことは大きかった。とても分かりやすかった。</p> <p>※少人数のよさを生かし、全員が「できた」と感じることができ授業づくりに取り組む。教師と子どもでのやり取りだけでなく、子ども同士で学び合える学習形態や授業づくりの工夫を仕組んでいきたい。</p> <p>※タブレットの活用について、学習したことをノートに残すのが、タブレット上に残すのか・使い分けが非常に難しいと感じた。</p> <p>※低学年はまずはノートや教科書に慣れることが大切であると感したので、タブレットの活用はあまりしなかった。</p> <p>※先生方の授業先生に指導いただいたことは、大変ありがたかった。</p> <p>※年間を通して大橋先生に指導いただいたことは、大変ありがたかった。</p> <p>※自分事としてとらえられるような研修内容にしていかねばならない。</p> <p>※シエクアウト訓練は1度しか実施できていないが、今後アラート訓練のときは、実施する。</p>
	㉑ 教職員の危機意識の高揚	・不祥事防止研修、人権教育研修、危機管理研修を計画的に実施する。 ・危機管理マニュアルの周知。 ・シエクアウト訓練を6回以上実施し、危機意識の向上を図る。	4.0	4.1	<p>※低学年はまずはノートや教科書に慣れることが大切であると感したので、タブレットの活用はあまりしなかった。</p> <p>※先生方の授業先生に指導いただいたことは、大変ありがたかった。</p> <p>※年間を通して大橋先生に指導いただいたことは、大変ありがたかった。</p> <p>※自分事としてとらえられるような研修内容にしていかねばならない。</p> <p>※シエクアウト訓練は1度しか実施できていないが、今後アラート訓練のときは、実施する。</p>
(13) 地域との連携	㉒ 保護者・地域との連携	・保護者への適切な対応、支援・助言に努め「学校の先生には、子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合を80%以上にする。 ・全学年で地域人材、資源を活用した授業を3回以上意図的・計画的に実施し、郷土愛を育む。 ・ふるさと「くりにみ」が好きと答える児童の割合を90%以上にする。	4.1	4.0	<p>※保護者の信頼・協力を得るために必要なこと…。一度、みんなで話してみることも大切かと思う。他の項目でも同じことが言えるが、管理職の先生が目指を立て数値設定していただいても、実際に前に立っているのは教職員。方向性を共通理解しておくことも大切かと思う。親の立場で言うと「あの先生はいい話を聞いてくれる。」「あの先生は何かあった時連絡してくれない。」「こちらの言い分を聞いてもらえない。」「言葉かけが強い。子どもが驚いている。納得していない。」「仕事で忙しかついているのに、今でなくてもいいことで連絡してくる。」「連絡が通らない。」「等。担任や対応する者の実践や対応の仕方が、ダイレクトに保護者の評価につながっていると思う。子どもの育ちを願うのは、学校も保護者も同じはずなので、教師と保護者のベクトルが同じ方向に向くことが子どもの幸せ、担任の評価にもつながると思う。それは何かを考えるとよい。</p> <p>※社会科やくりにみタイム(総合的な学習の時間)に、地域学習を進めてきた。安全マップ作りも併せて、保護者に多くの協力を得ることが多く、大変ありがたかった。</p> <p>※学校通信を定期的に発行し、保護者に学校の様子をこまめに伝えるようにする。</p> <p>※余裕が生まれれば、保護者との連携も密になるので、働き方改革について常に考えていく。</p> <p>※地域の人材を活用する方向でも意識し、連携を深めるため、担任から声をあげていく。</p> <p>※保護者の思いを聞くこと。気がなったら直接話すことがやはり大切だった。</p> <p>※学校通信を定期的に発行し、保護者に学校の様子を伝えるようにした。子どもたちも自分の作品や写真が載っていると、喜んでた。ホームページと内容がだぶるときもあるが、気にせず出している。</p> <p>※丁寧に説明して下さっている先生が多いが、やはり「相手の話を最後まで聞く」ことを常に意識していかねば、本当の信頼は得られないのではないかと感じる。</p> <p>※ホームページの更新に関して、写真提供や文書作成など協力できていないことが多い。改めなければいけない。</p> <p>※ホームページの更新は、無理のない程度で行っていく。</p>
	㉓ ホームページによる情報発信	・ホームページの更新を2日に1回以上行い、学校の地域への情報発信を促す。	4.8	4.8	<p>※ホームページの更新は、無理のない程度で行っていく。</p>
(14) 施設・設備	㉔ 施設・整備の安全確保	・月1回以上の安全点検の実施による、施設の安全確保の助行。	4.2	3.9	<p>※(病院に行くレベルの) 子どもたちのけがの発生場所や発生状況を共有したい。7月に2年生の児童が園工室前で転倒し顔面を強打した案件は、大けがに至らなかったものの失明の危険もあった。例えは裁判になったとして学校の過失を問われそうなる危険がたかさん潜んでいることを実感した。形式的な安全点検も大事ではあるが、実際に校内で起きたけがや事故(ヒヤリハット)の事例検討や共通理解もしておく必要があると思う。けが発生場所校内マップを作って昇降口に貼り、児童に見えさせるのも一案かと思う。</p> <p>※施設設備の要領を市教委に積極的に伝えていく。</p> <p>※個々の担当箇所を点検をもっと確実にやっていく必要がある。</p> <p>※教室や器具などの不具合を見つけたら、その都度伝えていく。</p> <p>※老朽化により修理の必要がある箇所がたかさんあるが、なかなか一度には直してもらえない。</p> <p>※特別教室をフルに使って活用できていると思うが、今、更衣室が学年ごとに別の部屋を使っているため、消毒作業をするという約束のもと、兼用させてもいいのではないかと。高学年の更衣室が体育館で、昔替えに結構時間がとられ、朝のハラスでの水やりや休み時間に集合がかったりしていたのは女子だけハラスでかわいそうだった。</p> <p>※ホワイトボードなどを活用したりチェックをしたりして、特別教室や空き教室の使用が重ならないようにする。</p> <p>※EORは有効活用できている。</p>
	㉕ 学習環境の整備	・学習活動の充実に向け、空き教室や特別教室を有効に活用する。	3.8	4.1	<p>※アンケートで楽しいと思う手もいたため、カウンセリング等で解決できるようケアしてきた。教室の雰囲気も良くなってきているが、低学年から引きずっている面もあるので、引き続き対処していきたい。</p> <p>※子どもは「学校が楽しい」と回答している子が大半ではあるが、そうではない子もいる。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出したり、納得して帰れるよう心掛けたい。</p> <p>※年間行事表や月行事予定表を確認し、計画的に行事や学習を組むことで、無理をせず楽しい学校生活につなげる。</p> <p>※児童の表情の変化に気づく。そのために、大人に心の余裕がないといけないと感じた。</p> <p>※せびこの頃の中に教職員の満足度も入れてもらえると思う。満足度は同パーセントになるか・・・、「子どものために」と一丸で頑張っている教職員だが、求められることが増える一方で、以前であれば、安本指導主事が話していたように、授業のこと、子どもたちのご褒美に上がっていた職員室の話題が、最近では疲れやしんどさ、愚痴といった話題に変わっているように思う。教職員のモチベーションがより高くなる配慮を教務部の先生方には考えてもらえればありがたいです。</p>
(15) その他	㉖ 幼児児童生徒の満足度	・楽しく学校生活を送っている児童の割合を90%以上にする。	4.2	4.1	<p>※アンケートで楽しいと思う手もいたため、カウンセリング等で解決できるようケアしてきた。教室の雰囲気も良くなってきているが、低学年から引きずっている面もあるので、引き続き対処していきたい。</p> <p>※子どもは「学校が楽しい」と回答している子が大半ではあるが、そうではない子もいる。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出したり、納得して帰れるよう心掛けたい。</p> <p>※年間行事表や月行事予定表を確認し、計画的に行事や学習を組むことで、無理をせず楽しい学校生活につなげる。</p> <p>※児童の表情の変化に気づく。そのために、大人に心の余裕がないといけないと感じた。</p> <p>※せびこの頃の中に教職員の満足度も入れてもらえると思う。満足度は同パーセントになるか・・・、「子どものために」と一丸で頑張っている教職員だが、求められることが増える一方で、以前であれば、安本指導主事が話していたように、授業のこと、子どもたちのご褒美に上がっていた職員室の話題が、最近では疲れやしんどさ、愚痴といった話題に変わっているように思う。教職員のモチベーションがより高くなる配慮を教務部の先生方には考えてもらえればありがたいです。</p>
	㉗ 保護者の満足度	・我が子は楽しく学校生活を送っていると答える保護者の割合を80%以上にする。	4.2	4.1	<p>※アンケートで楽しいと思う手もいたため、カウンセリング等で解決できるようケアしてきた。教室の雰囲気も良くなってきているが、低学年から引きずっている面もあるので、引き続き対処していきたい。</p> <p>※子どもは「学校が楽しい」と回答している子が大半ではあるが、そうではない子もいる。子どもが期待して登校、満足して下校を目指して、日々の学校生活に楽しさを見出したり、納得して帰れるよう心掛けたい。</p> <p>※年間行事表や月行事予定表を確認し、計画的に行事や学習を組むことで、無理をせず楽しい学校生活につなげる。</p> <p>※児童の表情の変化に気づく。そのために、大人に心の余裕がないといけないと感じた。</p> <p>※せびこの頃の中に教職員の満足度も入れてもらえると思う。満足度は同パーセントになるか・・・、「子どものために」と一丸で頑張っている教職員だが、求められることが増える一方で、以前であれば、安本指導主事が話していたように、授業のこと、子どもたちのご褒美に上がっていた職員室の話題が、最近では疲れやしんどさ、愚痴といった話題に変わっているように思う。教職員のモチベーションがより高くなる配慮を教務部の先生方には考えてもらえればありがたいです。</p>